

(様式 3)

令和 6 年度 しまねの公民館次世代参画支援事業 実績報告書

市町村名	大田市	公民館等の名称	大森まちづくりセンター
------	-----	---------	-------------

事業の 目的	わが町の異業種交流と持続可能なまちづくりを目指す。普段交流することのない年齢や職業の異なる人と地域（大森町）について語り合い地域活動に関心を持ち、周りを巻き込みながら今後の活動に参画してもらうため。
事業の内容	○ターゲットとする世代 20代～40代を中心とする。 ○地域の状況やターゲットとした理由 大森町に働く人・関わる若者は増加している（移住者も含めて）が、その人々が地域の活動に参加し交流する機会がないのが現状である。今回の企画によりわが町への関心を持ち、持続可能なまちづくり活動に参画し、地域の力になってほしいと考え今回のターゲットとした。 ○事業の内容（日時、場所、参加者数、具体的な活動） ・異業種交流イベントとしてタイトルを『おおもりサラダボウル』に決めて、色々な人が集まり多様性のある活発な交流により、新しい地域を担う若者の事業への参画を図ろうとした。 ・単発の企画では具体的な事業実施まで結べないのではと感じ、全3回（6/28, 7/19, 9/13）のシリーズとして計画を立てた。 ・場所と時間は、大森町並み交流センターにて、平日金曜日の 19:00-と毎回固定で実施。 ・1回目（6/28） 23 名 名刺交換会を行い、初めて会う仲間との交流活動を実施。すでに顔見知りであっても名刺交換をしてもらい、話がはずみ打ち解ける姿がとても良い感じでスタートした。アイスブレイクは講師を迎えて「コーヒー講座」を行った。その後、大森町について4つのグループに分かれてブレインストーミングによるイメージマップの作成・発表・振返りを実施。 ・2回目（7/19） 15 名 前回出たアイデアを忘れないうちに2回目を執り行おうと1か月以内に事業を実施。アイスブレイクは「紙タワーチャレンジ」。取り組みは、1回目で作成したイメージマップを実現するための、マインドマップ（個人シート）と（グループシート）を作成。自分の意見を固めつつ、グループごとの具体的なマインドマップを作成して意見共有と発表を実施。 ・3回目（9/13） 19 名 アイスブレイクは「パースデーチェーン」。取り組みは、前回の振返りをして実践可能な事業計画を考えるキックオフミーティングを実施。参加者同士やファシリテーター・まちセン職員で実践に向けての具体的な計画を一緒に立てていった。これからの事業開催に向け、仲間意識の向上を図るためピザトーストを作るワークショップを実施。（参加費徴収@200 円/1 人）

成果と課題 今後の見通し	○期待する成果・効果 3回シリーズにしたことで、単発の企画では出来ないような具体的な事業計画まで進めることができた。グループ間の交流においてはとても良い関係性を持つことが出来たと感じた。これまで話をする機会もなかった異なる業種の参加者達が、会を重ねるごとにワークにも慣れ、話がどんどん弾み展開して行く様子が感じられた。事業の企画も実現性の感じられる提案が記録に残されていった。それぞれのグループの企画した事業の実施時期を目指し、実現していくために次年度事業の予算の設定や、新たな仲間を繋ぐ取り組みなどを考えていく事が期待できる。交流及び話し合いの機会を設け、今後も次世代参画支援事業が良い形で展開され、皆で学び・集って・楽しみながらより多くの協力者を巻き込み、進めていけるよう継続して取り組む事を目標に活動していきたい。
	○計画書に記載された「期待する成果・効果」をふり返って見られた成果や課題、次年度以降の見通しなどをご記載ください。 まちセン事業に関わりの少ない若者世代を集めて異業種交流をすることで、大森町で働く方々の交流や地域事業へ積極的に参画してもらう成果や効果を期待して計画した。 これまで、まちづくりセンターの活動に関わることの少なかった年代の参加者の方々が集い、異業種交流会を実施したことで新しい関係性を築いてもらえた。1回目の名刺交換の際、町なかで顔や車は見かけたことがあっても話す事はなかった方との交流は、大変盛り上がり見ているスタッフも一緒に参加したいと思うほどに楽しそうな様子だった。普段、交流する機会の少ない環境であったが、楽しい時間を共有することが出来るのだと実感した会となった。時間や名刺交換する人数の制限があり物足りなかったとの参加者の声を聞き、来年度、異業種交流をする際はもう少し交流の規模を大きくし有意義な事業を計画したい。 今回の事業では、自分たちの住む/働く町のために楽しい企画を考えて実践するということを目指し話し合いを進めた。事業計画を行う中で、実践に繋がる話し合いに発展させるためには単発の事業ではなくシリーズものの企画とした方が成果につながると確信して計画を変更して全3回シリーズの企画となった。話し合いをする頻度は早い方がより成果につながると思いコンスタントにイベントを企画して実施したことにより、参加人数がまばらになってしまう会があったのが課題だ。一方で、シリーズものとして企画したことで、参加者達がまちづくりセンターに足を運んでもらう事に抵抗感も少なくなったのではないかと感じている。 またワークの中では、ブレインストーミングやイメージマップなどあらゆる手法を駆使すると同時に、個人で考える時間とグループで話し合いを重ねることを繰り返すことで、イメージを膨らませてもらい持続可能な楽しいまちづくりを実現させる未来が少しずつ形として見えてきたと感じる事業となった。この活動が、ワークのなかだけでなく実践へと迎えるよう次年度以降も継続活動をしていくという意識を共有して本年度の事業を終えた。事業後にアンケートを実施してみたところ、今後のイベント等への参加に好感触の感想などを頂けた。 次年度以降について、異業種交流会の企画はとても有意義な活動だったので今後も継続して実施して行きたい。今回の事業で企画・発案された事業については、本格的な実施をしてもらうべく打合せや計画のサポートも含めて進めていきたい。

令和6年度 しまねの公民館次世代参画支援事業 報告写真

1回目 名刺交換



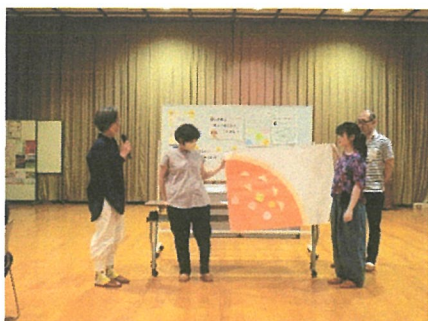
コーヒーワークショップ



ブレスト



発表



まとめ



2回目 アイスブレイク



紙タワー



イメージマップ発表



3回目 パースデーチェーン



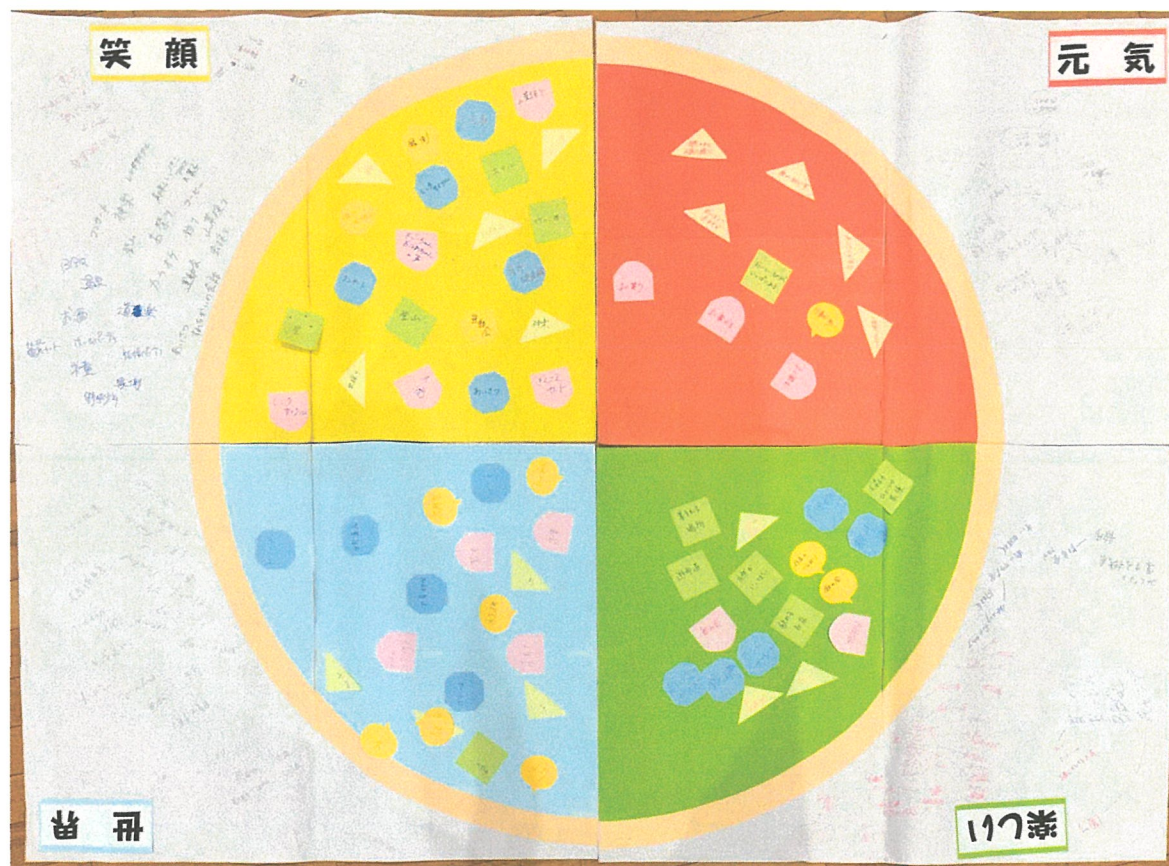
キックオフミーティング



アイデア共有タイム



1回目ブレスト付箋張り出し



2回目イメージマップ（上）

3回目キックオフミーティング事業計画シート（下）

